

7/26 幸いシリーズ② マタイ4章5節 「悲しむ者は幸いです」
後藤正樹牧師

*御国の民として生きる

山上の説教も8つの幸いも救われるための条件ではなくて、救われた後の歩みについて語られています。私たちは救われた後の歩みがとても大切でありここから私たちの幸いな歩みがスタートします。やがて天の御国が来るその日を目指して幸いな歩みができるようにイエス様は8つの幸いを私たちに教えてくださいました。

*悲しみを携えて

神様は私たちが悲しむことを許してくださっています。神様は私たちの涙を知って悲しむ時間を大切にしてください。(イザヤ63:9)だから私たちはなんの恐れもなく主の前に悲しみを携えて進みゆくことができます。そして悲しみを携え主の前に行く時、イエス様に結び合わされた私たちの受ける悲しみは悲しみのままで終わらず、私たちは再び立ち上がることができる。ここに私たちに与えられる主の慰めがあります。

*悲しみの中で出会う

私たちは多くの場合、悲しみの最中にイエス様を見出すことができないようにも思えます。しかし悲しみの中で私たちは慰め主なるイエス様に出会うことができます。悲しみの中であって主の幸いを見つけ、喜ぶことができます。私たちは悲しみの後だけでなく悲しみの中で主を見いだせる者とならせていただきたいと願います。

*慰める者として

悲しみの中で得た主の慰めは私たちの信仰を強めこの地上での歩みをより豊かなものにします。でもそれは個人的なことだけに留まりません。(Ⅱコリント1:4)私たちの悲しみの経験、主の慰めの経験が今苦しみにあっている人たちの悲しみを慰めることにつながります。私たちの周りにはいる主の慰めを知らずに悲しんでいる人たち、イエス様を必要としている人がいます。そのような方々をイエス様のもとに導いていく役目が私たちに与えられています。

*まとめ

私たちは主の前にあって悲しんでいい、泣いてもいい。主が私たちの傍らにいてくださり、慰めを与えてくださるから。よりそってくださるから。だから主の前に出て心から悲しむ者とされたい。自分の愚かさに向き合って嘆く者でありたい。そして主の与えてくださる豊かな慰めをいただきたいと願います。また、悲しむ人と共に悲しみ、主の慰めを共に喜び、分かち合う私たち古河教会とならせてさしていただきたいと願います。